

# 目次

- △題 字 町尻部隊長
- △序 町尻部隊長
- △序に代へて 石川参謀長

## 輸送及杭州灣敵前上陸

- △船中の假参謀部 美原 軍曹
- △船中所感 山田 軍曹
- △上陸 酒井准尉外幕
- △上陸前後 甲佐 軍曹
- △馬騒動 松山一等兵
- △上陸と泥濘 清野 軍曹

### 歩二三

- △自決を覚悟した者であった
- △大敵に襲はれて

吉田 軍曹  
堂間上等兵

### 歩四七

- △朝霧を衝いて
- △一死奉公を誓ひつゝ
- △海の中から敵に應戦
- △戦友前後に斃る
- △滯鼠になつて
- △無事上陸
- △中隊主力と離れて苦戦
- △砂糖に未練
- △内匙が弾よけ
- △奇襲上陸を語る

柳井上等兵  
樋口上等兵  
清家 豊  
首藤 軍曹  
山路野茂志  
中島 軍曹  
松本 軍曹  
松成 伍長  
江藤 軍曹  
第五中隊座談會  
山本 軍曹  
的場上等兵  
古莊 光夫

### 騎兵六

- △船中で馬の運動
- △補充員の追及
- △水路行軍

△水牛に乗つて	三村上等兵
△泥水で炊事	奥村上等兵
△通信筒を受け友軍救援に	弦本上等兵
△戦友の遺	佐藤上等兵
△同郷の友	吉田 軍曹
△弱馬班	加藤上等兵
△哀しげな断きを後にして	司令部
△徒歩隊の敵襲	獸 医 部
△不覺 中らぬ弾丸に	永井上等兵
△分隊全員で馬の看護	富中 軍曹
	島田 軍曹
野砲六	
△北斗七星に航路も尋ねつゝ	中村 軍曹
△積根を盡して陸揚作業	安部一等兵
△首まで入つて上陸	野口上等兵
△在留邦人に感激しつゝ	川畑上等兵
歩四五	
△ガンブと煙草は海中へ	白坂上等兵

△船は進めど	有村 軍曹
△霧の抗州湾	松山上等兵
△陸海軍の美しい協力	野元 中尉
△チヤン酒で落伍	高石上等兵
△纏足	藤山上等兵
衛生隊、野戦病院	
△孝必勝奉公の時來れり	第四野旅 東條 中尉
△船内點景	本田上等兵
△船内演藝會	第一 洪谷 軍曹
△南下して上海上陸	第四 高比良中尉
△急造担架で患者收容	第二 矢野上等兵
△衛生材料の陸揚げ	水木上等兵
△朝に王公夕に乞食	衛生隊 高野 少佐
歩一三工本部隊鼓會	
◎敵前上陸より島嶼近まで	工兵第六聯隊本部座談會

# 上陸後の戦斗及退路遮断

歩四七

- △降雨と泥濘
- △斥候全買クリークに流さる
- △救命胴衣で救はる
- △他師団の特技に煙草を貰ふ
- △機関銃を採り求めて
- △追惠前進に際して
- △生命の恩人
- △味噌遣ひ
- △決死の弾薬輸送
- △残留者を指揮して
- △土左衛門のほり損ひ
- △小銃一挺で部隊追及
- △砲弾薬を袋ではこぶ
- △友軍機と共に鉄路遮断

- 加藤 軍曹
- 成松 軍曹
- 黒沢 軍曹
- 矢野上等兵
- 尾川 軍曹
- 鈴木 軍曹
- 仲村渠軍曹
- 荒金上等兵
- 山本上等兵
- 阿部 曹長
- 高木上等兵
- 藤井 軍曹
- 上段 軍曹
- 藤井 軍曹

- △七百名の敵を捕へる
- △危し支那の第五列
- △金山の戦斗
- △黄浦江の殲滅戦
- △黄浦江附近まで
- △張庄附近の戦斗
- △陸軍刑法で處罰するぞ

- 衛生隊、野戦病院
  - △ぬかるみ地獄
  - △名栗嶺の「ス」
  - △泥濘をゆく
  - △思ひ出の水路行
  - △ボクモチと大尉殿
  - △苦心の給水班
  - △人情不入情
  - △要路の患者護送
  - △恐るべき有様
  - △連絡も食料もない
- 羽矢 軍曹
  - 首藤 伍長
  - 中村 軍曹
  - 宗 上等兵
  - 第十二中隊座談會
  - 孔井 軍曹
  - 矢野上等兵
  - 松下 伍長
  - 赤武 中尉
  - 上野上等兵
  - 高木 中尉
  - 總田上等兵
  - 末條 少尉
  - 西島 軍曹
  - 迫田 軍曹
  - 赤池 軍曹
  - 山野 軍曹

歩一三

△停村鎮附近の沈滞

△假装行軍

△沈中を行く

△唐子決で捕へた姑娘

△水牛はこり

△金山を出て

△紅塗りの木壺

野砲六

△松蔭鎮附近の難行軍

△時夜の單騎連絡

△二里を八日かゝつた

△嘉興攻夷の想出

△沈滞の中の七時間

△燧煉瓦で腰を暖める

△馬は次々に倒れる

△愛馬に感謝

竹原上等兵

甲斐上等兵

肥川上等兵

栗原 曹長

高野 伍長

野口 伍長

中倉田軍曹

東 軍曹

笠置 軍曹

岩本上等兵

宮之原軍曹

中西 軍曹

浜田上等兵

山本 軍曹

司令部 獣医部

歩四五

△知らぬが借

△介隊長の遺志を継いで

△御苦労！御苦労！

△行軍と鶏

△嵐山附近

新里 中尉

高田 伍長

第四中隊座談會

東中川上等兵

第六中隊座談會

余山鎮の戦鬪

△余山鎮附近の戦斗 歩四七

△戦友の屍体と共に

△籠れて尚止まず

△天文台回顧

△余山鎮の激斗

△余山鎮の思ひ出

△谷間下と兵隊

第三中隊

第三中隊

第三中隊

歩三 第十中隊座談會

歩兵衛兵 吉本中尉

座談會

座談會

# 青浦城攻撃

## 歩四七

- △日幸旗を仰ぐ道で
- △肉弾の勝利
- △何んといふ豪膽不敵
- △竹原次元弁候
- △小代次死弁候
- △敵傷兵に抱薬
- △青浦城外急念の一夜
- △荒鷲の協力に又前進
- △勇致が部下の語
- △志賀小隊長最後の言葉
- △走水られぬ事
- △クワークに引摺り込まれる

## 歩二三

- 吉田 大尉
- 安東上等兵
- 秋吉 軍曹
- 松田上等兵
- 佐藤上等兵
- 須川 伍長
- 向 軍曹
- 渡辺上等兵
- 山際 中尉
- 藤元上等兵
- 泉 伍長
- 故川野 伍長

# 蘇州河から崑山附近まで

## 歩二三

- △青浦城に至る苦戦
- △我先を制して
- △青浦城外立橋上の奮戦
- △重傷を負へど尚進兵
- △無我無中だった
- △痛恨の友軍機の爆薬

- 十亀 軍曹
- 川野上等兵
- 針屋 准尉
- 松山 上等兵
- 紺屋 准尉
- 紺屋 准尉

- △嘘のやうな話
- △想ひ出三題
- △死んだ筈の敵が反撃
- △蘇州河一番乗り
- △鍋墨の姑娘
- △崑山で中隊に追及
- △平笠鎮文隊

- 吉田 軍曹
- 中野 軍曹
- 木上 軍曹
- 酒井 中尉
- 河野 上等兵
- 後藤 上等兵
- 第十一中隊

歩四七

△白鶴港鎮に突入

東思朝上等兵

△儀刺を刺されり逃げる敵

白中 軍曹

△蘇州河の運搬戦

中村 軍曹

△彈雨下舟を奪つて帰る

木田 軍曹

△蘇州河渡河戦

羽田野軍曹

△支那語で危險を告ぐる

入学 曹長

歩兵衛兵、騎兵衛兵

△上陸より松浦鎮まで

騎兵衛兵 座談會

△蘇州河上りも激戦

歩兵衛兵 吉本中尉

△徽弁日動軍で小比夢謀殿を退す 司令部 白帆全澤

△子岡副官殿と敵營に行く 歩兵衛兵 丸岡軍曹

歩一三

△蘇州河から部隊進发

加志 伍長

△瘴気な激戦

荒木 軍曹

△蘇州河血染の握り飯

倉本 軍曹

△崑山より南京へ

第十中隊座談會

△戦いの跡を見つゝ

渡辺 軍曹

△死体浮いた河水を飯を炊く

甲斐上等兵

南京に向ふ急行軍

輜重六、野戦病院

△輜重先遣隊重

輜重六 東 一等兵

△燃えたい薪

下川上等兵

△渡水橋を壊す

松永 誠一

△隊長殿も患者の小使の世話

第三野隊 朝留 伍長

△英靈よ安らか

第四野隊 撒手 少尉

△真い飯

赤田上等兵

△志士得ぬ自轉車行軍

第一野隊 迫田 軍曹

△豪華な敵營も骨折破

長田 軍曹

△ボケト大夢を語らる

山村 軍曹

△居たく愛馬を殺す

輜重六 赤日 伍長

△居たく愛馬を殺す

先崎 列英

△手綱片手に握り飯 韃重六 岩城 武雄

歩四五

△徹夜行軍七十里 久保園軍曹

△夜行軍ユーモア 月堂 伍長

△あの時はかりは眠かつた 段原 軍曹

△南京が陥ちては大変 逆原 軍曹

△眠さ志れの妙案 新里 中尉

△辛い急行軍 四元 軍曹

△急行軍持話抄 第十一中隊座談會

△河南府の想出 第十一中隊座談會

△感とり 下松 曹長

△チヤン道の利貝 久保 軍曹

野砲六

△南京へ南京へ 中村上等兵

△新しくして巨弾は飛ぶ 久木山軍曹

△南京洋のこと 藤崎 軍曹

△支那酒で療す 岩谷 軍曹

△装甲車隊の危難 瀬口 准尉

△木斗異変 石崎 中尉

△拾ったカシメホーで元氣百倍 富徳一等兵

△痛馬を愛い 坂下 伍長

△睡つて部隊に連れらる 紫五 軍曹

△隊長殿の神々しい後姿 福富 軍曹

△痛馬と共に急行軍 田中 伍長

△糧秣を共背負ひ急行軍 池田上等兵

歩四七

△南京攻出前のコレラ 吉野 伍長

△柳澄鎮静剤 第五中隊座談會

△南京に向ふ一日 加藤上等兵

△嘉善の想出 藤川 軍曹

△徹夜は危険です 左部上等兵

△嘉善一週間の焦慮 長野 明春

△最後の頑張り 倉迫 少尉

歩兵衛兵・騎兵衛兵

△南条への急行軍 歩兵衛兵 座 談 會

△南条へ向ふ 騎兵衛兵 座 談 會

△感激の司令部 歩兵衛兵 吉本 中尉

色は黒いか

一色は黒いか血は赤い

九州育ちの殺傷人

胸を叩けば一と押しに

忽ち落す城の敵

あゝ日本一の六師團

二家も命も君のため

捧げつくした武士の

汗にまみれた軍服に

白小豆畑の草の花

あゝ日本一の六師團

三吹雪の原に寝もやらぬ

急進軍の幾晝夜

凍る手先に鋭執れば

絲身に熱い血が滲る

あゝ日本一の六師團

四膳間あぐる城の上

一巻糸のほまれにも

功誇らず戦友を

思ふは涙もつとしく

あゝ日本一の六師團